

特別活動部会 研究の構想（案）

平成 24 年度～

I 研究主題

学級活動において、よりよい生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育成するための指導・援助はどうあればよいか。

II 主題設定の趣旨

特別活動の目標は、よりよい生活や人間関係を築くことを重視して、「望ましい集団活動を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図り、集団や社会の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育てるとともに、人間としての生き方についての自覚を深め、自己を生かす能力を養う」ことである。

学級は、生徒にとって各教科等の授業を受ける場であるとともに、学校生活を送る上での基礎的な生活の場である。この学級集団を基盤として行われる学級活動は、学校生活の全般に関わる事柄を扱う生徒の自主的、実践的な集団活動である。また、学級における生活の有り様が生徒の学習や生活、対人関係、ものの見方・考え方等に大きな影響を及ぼすことから、他では代替することのできない大切な教育活動である。

そこで、これまでの研究の成果を踏まえ、学級活動を中心に体験活動を通してよりよい生活や人間関係を形成するための自主的、実践的な態度の育成に焦点を当て、生徒指導を基盤に据えて、各教科、道徳、総合的な学習の時間との関連を図りながら主題の解明に取り組んでいきたい。

III 研究のねらいと内容

1 研究のねらい

- (1) 学級活動を中心として、「なすことによって学ぶ」という特別活動の特質等を踏まえ、ガイダンスを適時、適切に取り入れ、生徒の自主的、実践的な活動を通して、自己や集団の諸問題の解決を図りながら、集団や社会の一員としての自覚と責任を高める。
- (2) 教師の適切な指導・援助の下に、他との関わりの中で、望ましい人間関係を築きながら、人間としての生き方の自覚を深め、個性を生かして自己実現を図っていく能力や態度を育てる。

2 研究内容

- (1) 指導計画を工夫する。
 - ・自発的、自治的な話し合い活動の充実
 - ・ねらいを明確にした指導と評価の計画
 - ・3年間の学校生活を見通した系統的・発展的なガイダンス
 - ・各教科等との関連及び言語活動の充実
- (2) 指導内容や指導方法を工夫する。
 - ・よりよい生活や人間関係を築き、自治的能力を育成するための話し合い活動の充実
 - ・体験活動を生かした指導の推進
 - ・ガイダンスの機能を充実させた指導の推進
 - ・キャリア教育の視点に立った指導の充実
- (3) 評価を工夫する。
 - ・生徒のよさや可能性を伸ばす観点に立った、多面的・総合的な評価
 - ・国立教育政策研究所「評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料（中学校特別活動）」の活用

特別活動部会 平成 26 年度研究計画（案）

I 研究主題

学級活動において、よりよい生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育成するための指導・援助はどうあればよいか。

— 互いに認め合い、高め合う集団活動を通して —

II 主題について

1 昨年度の実践から

- ・日常生活や進路に関する課題の中から、生徒にとって必要感のある議題を取り上げたことは、生徒が問題意識をもち、将来を見通して集団生活を向上させようとする主体的な話合いにつながった。
- ・学級活動において、話合いのスキルを身に付けさせる指導や生徒の役割分担を明確にして進行や運営を継続的に生徒主体で行くことにより、生徒の自発的・自治的な態度を育てることができた。
- ・自他の意見を比較、検討するために、ホワイトボードや付箋紙等を活用して話合い活動を進めたことは、生徒一人一人の思考を深め、集団としての意見をまとめる上で効果的であった。
- ・自己決定や集団決定する場を意図的に設定したことは、学級全体で今後の具体的な活動方針を確認することにつながった。
- ・国立教育政策研究所の資料等を参考にして、指導と評価を適切に位置付けた計画を見直すことにより、ねらいに迫る授業を行うことができた。

2 今年度の主題について

学校における望ましい集団活動の基盤は、学級生活の充実にある。学級は、生徒一人一人のよさや可能性を生かして、社会性を育成し、人間としての生き方を学ぶための基礎的な生活の場である。学級そして学校生活への適応は、将来的によりよい生活や人間関係の構築を目指すための重要な要素となっている。そこで、昨年度までの実践を踏まえ、学級活動に自己表現力やコミュニケーション能力を高める活動を位置付け、生徒の望ましい人間関係を主体的に形成すると共に、生活の中で起こる様々な課題を話合い（という言語活動）によって解決していくこととする生徒の自主的、実践的な態度を育てることに焦点を当てて取り組むことにした。

3 主題解明に当たって

主題解明に向けて、以下の4点を重点的に取り上げる。

- ・自発的、自治的な話合い活動を促す課題設定や議題選択の工夫
- ・主体的な話合い活動の進め方と効果的な集団決定や自己決定の場の設定
- ・生徒の発達段階や実態を踏まえ、ねらいを明確にした指導と評価の計画の作成と見直し
- ・小学校との接続を含め、中学校3年間を見通した系統的・発展的な指導内容の工夫

III 研究内容とその視点

1 指導計画の工夫

- (1) 自発的、自治的な話合い活動を適切に年間指導計画に位置付け、よりよい生活や人間関係を築くために、生徒が自主的、実践的に活動できるようにする。
- (2) 地域や学校の実態、生徒の発達の段階や特性等を踏まえ、ねらいを明確にした指導と評価（評価規準）の計画を作成する。
- (3) 小学校からの接続に配慮し、中学校入学当初を含め3年間の学校生活を見通した系統的、発展的なガイダンスを指導計画に位置付ける。
- (4) 年間指導計画を作成する際には、各教科、道徳、総合的な学習の時間、特別活動の他の内容（生徒会活動、学校行事）との関連を明らかにする。

2 指導内容と指導方法の工夫

- (1) よりよい生活や人間関係を築き、自治的能力を育成するための話し合い活動の充実
 - ・教師と生徒、及び生徒相互の理解を深め、相手の立場を尊重しつつ、共に学校生活の改善に向けた問題解決に取り組もうとする雰囲気をつくる。
 - ・生徒が自ら生活上の問題を見付けることができるように、班長会議や係会議、諸調査等を活用して学校生活を振り返る機会を設ける。
 - ・学級や学校の生活上の諸問題を解決する活動として、自分たちできまりをつくるなど集団決定してそれを実行する活動、自己の問題に向き合い自己決定するために話し合う活動を適切に設定する。
 - ・主体的な話し合い活動とするために、社会生活と直結した切実な議題等を設定したり、折り合いをつけて学級全体としての意見をまとめる話し合い活動を行ったりする。
 - ・小学校6年間の経験で身に付けてきた話し合いのスキルやルール、国語科等で学習した様々な話し合いの方法等を、授業に生かすように配慮する。
 - ・集団決定や自己決定したことを実践して振り返る機会を保障し、集団や自己の高まりを実感できる場や自尊感情が高まる場を意図的に設定する。
- (2) 体験活動を生かした指導の推進
 - ・自然体験やボランティア活動、多様な異年齢集団による活動等の社会体験の意義を理解させ、社会の一員としての自覚と責任を高めることができるよう、体験的な学習の場を積極的に取り入れる。
 - ・生徒が企画段階から関わりをもてるように、学級活動や生徒会活動との関連を図る。
 - ・体験活動を振り返り、まとめたり発表し合ったりする言語活動を通して、自己の生き方を見つめることができるよう配慮する。
- (3) ガイダンスの機能を充実させた指導の推進
 - ・生徒が、学校や学級での生活に見通しをもって積極的に取り組めるよう、計画的、組織的に適切な情報を提供する。
 - ・中学校入学当初においては、小学校と連携して生徒の実態を把握した上で、個々の生徒が学校生活に適應できるように配慮し、生徒が希望と目標をもって生活できるよう工夫する。
- (4) キャリア教育の視点に立った指導の充実
 - ・生涯を通じて主体的に進路を選択できる力を養うために、中学校入学から卒業まで3年間を見通した指導計画を作成し、継続した学習を進める。
 - ・学ぶことや働くことの意義について、自分の考えをもたせ、自己決定したり、実践後の振り返りを大切にしたりする活動を設定する。
 - ・卒業生、地域の職業人、生涯学習に取り組む人等、様々な立場の人から生き方や人生の有り様について学習する場を設定し、自分の将来の生き方や生活について夢や希望をもつことができるようにする。

3 評価の工夫

- (1) 全教員の共通理解のもとで評価の観点を定め、生徒のよさや可能性を伸ばし自己肯定感を高めるために、育てたい生徒の姿を明らかにして具体的に評価する。
- (2) 国立教育政策研究所発行の「評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料(中学校特別活動)」を活用し、評価規準を内容のまとまりごとに作成する。
- (3) 継続的、多面的、総合的に評価するために、意識調査やカード等の記録、自己評価や相互評価の結果等を活用する。
- (4) よりよい生活や人間関係を築こうとする自主的・実践的な態度を育むために、個や集団の変容について、観点及び方法を重点化して評価する

IV 研究方法

- 1 生徒や学校、地域の実態に合わせた題材を設定し、研究主題に沿った授業実践と研究授業を行う。
- 2 各郡市、地区で持ち寄った実践事例に基づいて共同研究を進め、研究主題の解明を図る。
- 3 各郡市、地区の研究成果を集約し、次年度以降の研究に生かす。

